



# 『コンクリート圧送施工業務』 安全衛生のポイント

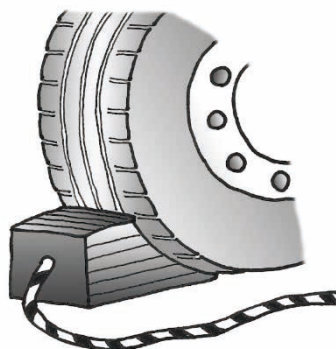
## コンクリートポンプ車の設置作業の注意

### (1) 車止めの取付け

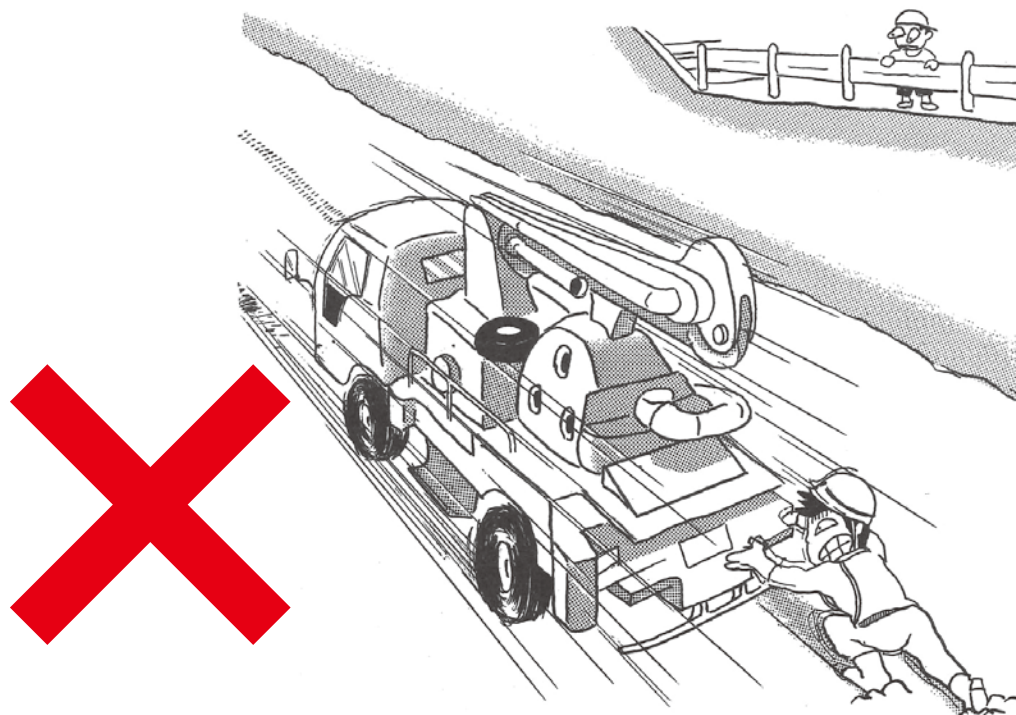
コンクリートポンプ車を設置するときは、自走してしまうことを防ぐために、タイヤに車止めを確実に取り付けます。



車止めの例



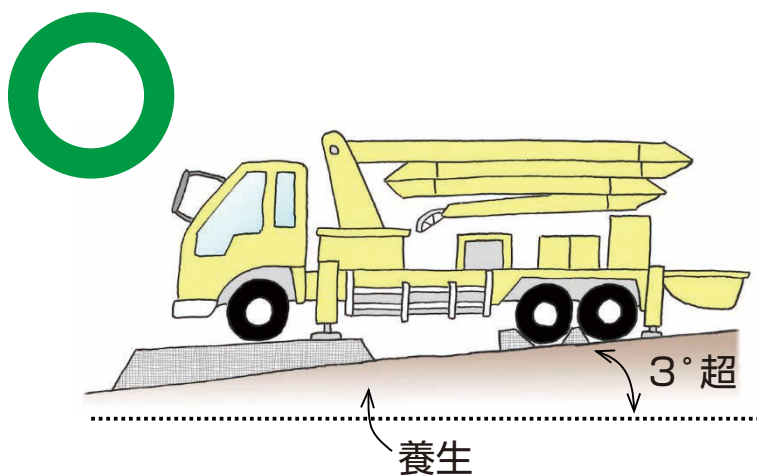
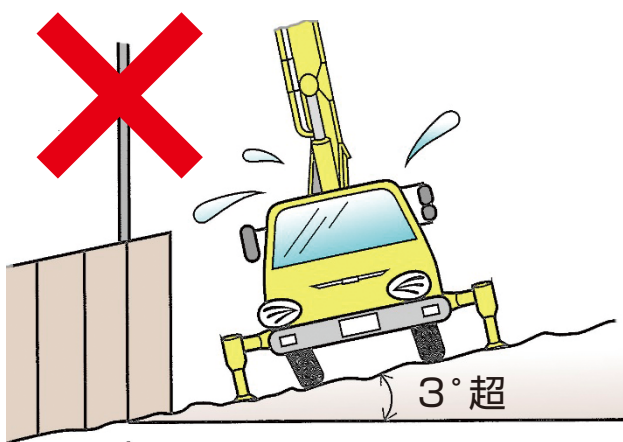
車止めの使用例



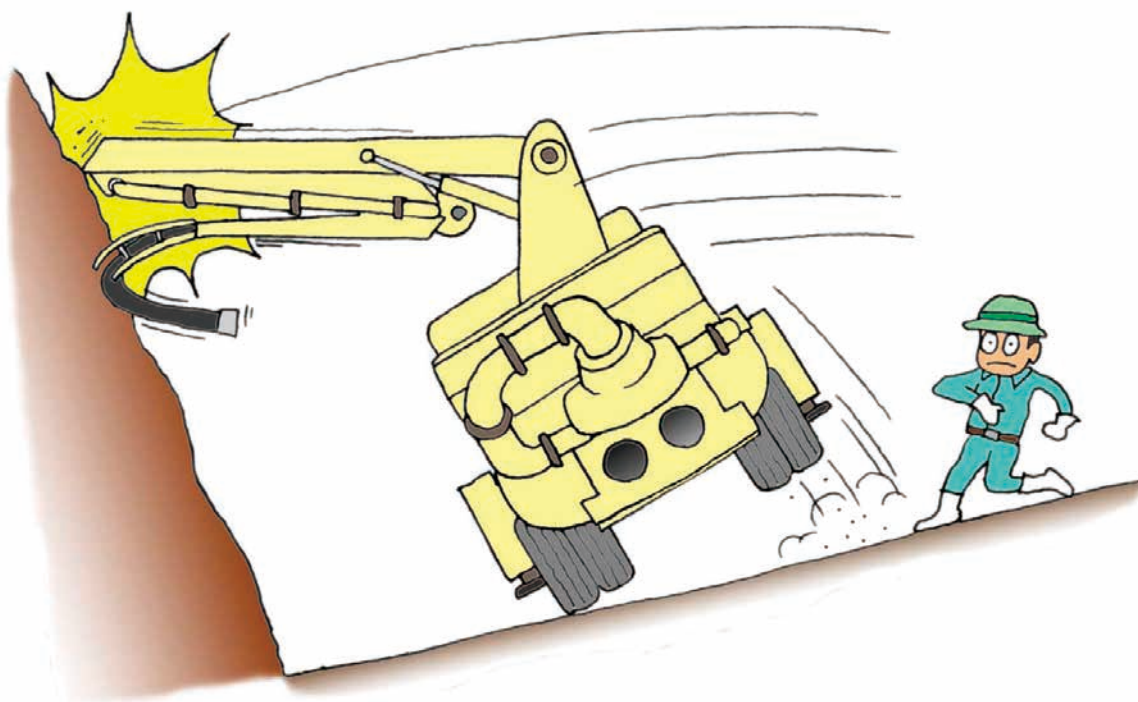
コンクリートポンプ車の自走事故例

## (2) 傾斜地での設置

コンクリートポンプ車は、原則として水平な場所に設置します。やむを得ず傾斜地に設置する場合は、転倒事故を防ぐため、アウトリガーのジャッキで車体の水平角度が前後左右 $3^{\circ}$ 以内になるように調整を行います。



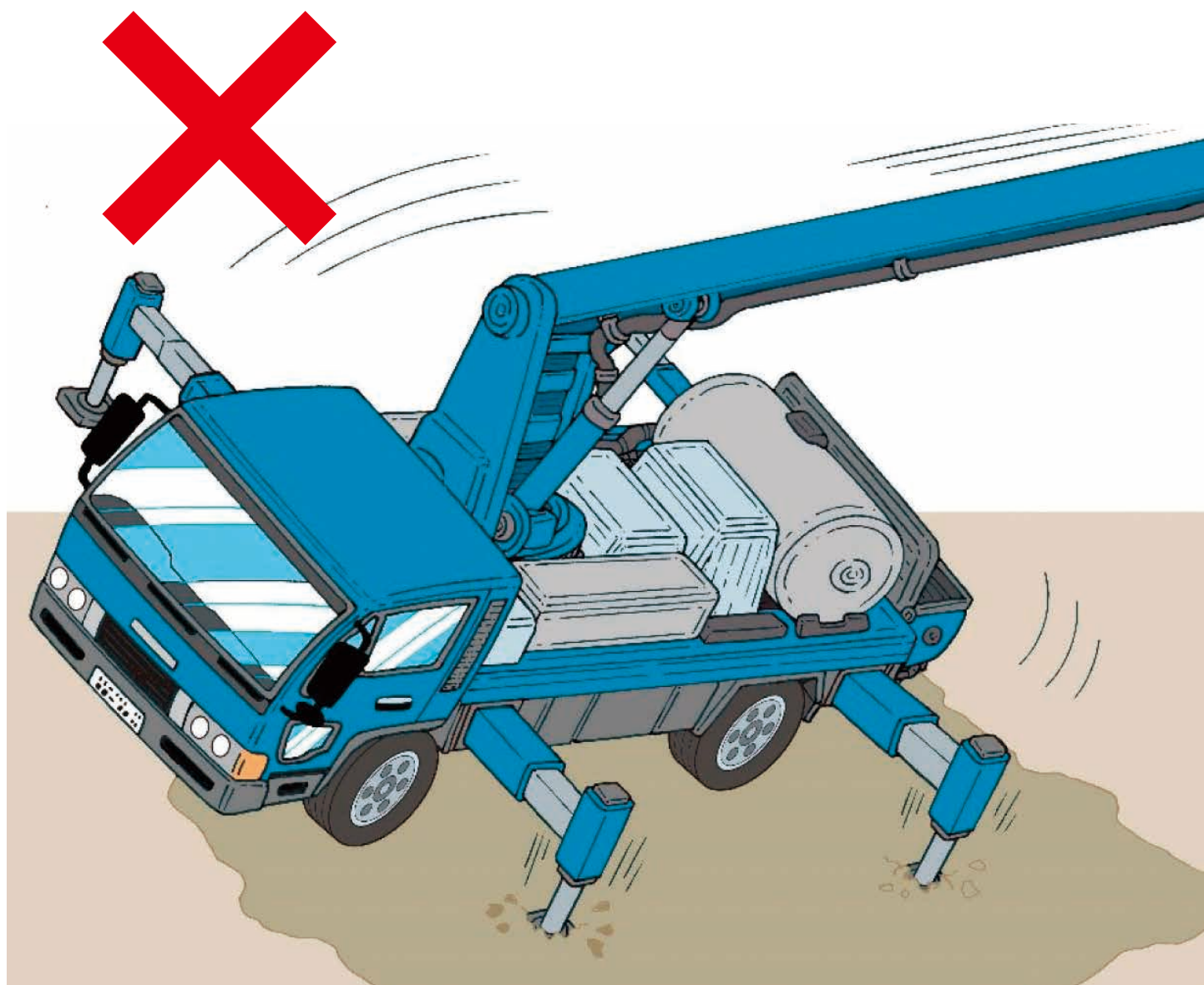
傾斜地での設置



傾斜地にコンクリートポンプ車を設置したことによる転倒事故例

### (3) 埋め戻し箇所での設置は避ける

躯体の近くは、埋め戻しをしていることが多いため、コンクリートポンプ車を設置すると、圧送作業中にアウトリガーが地面に埋没して転倒するおそれがあります。コンクリートポンプ車は、躯体近くの埋め戻し箇所は避け、安全な場所に設置します。



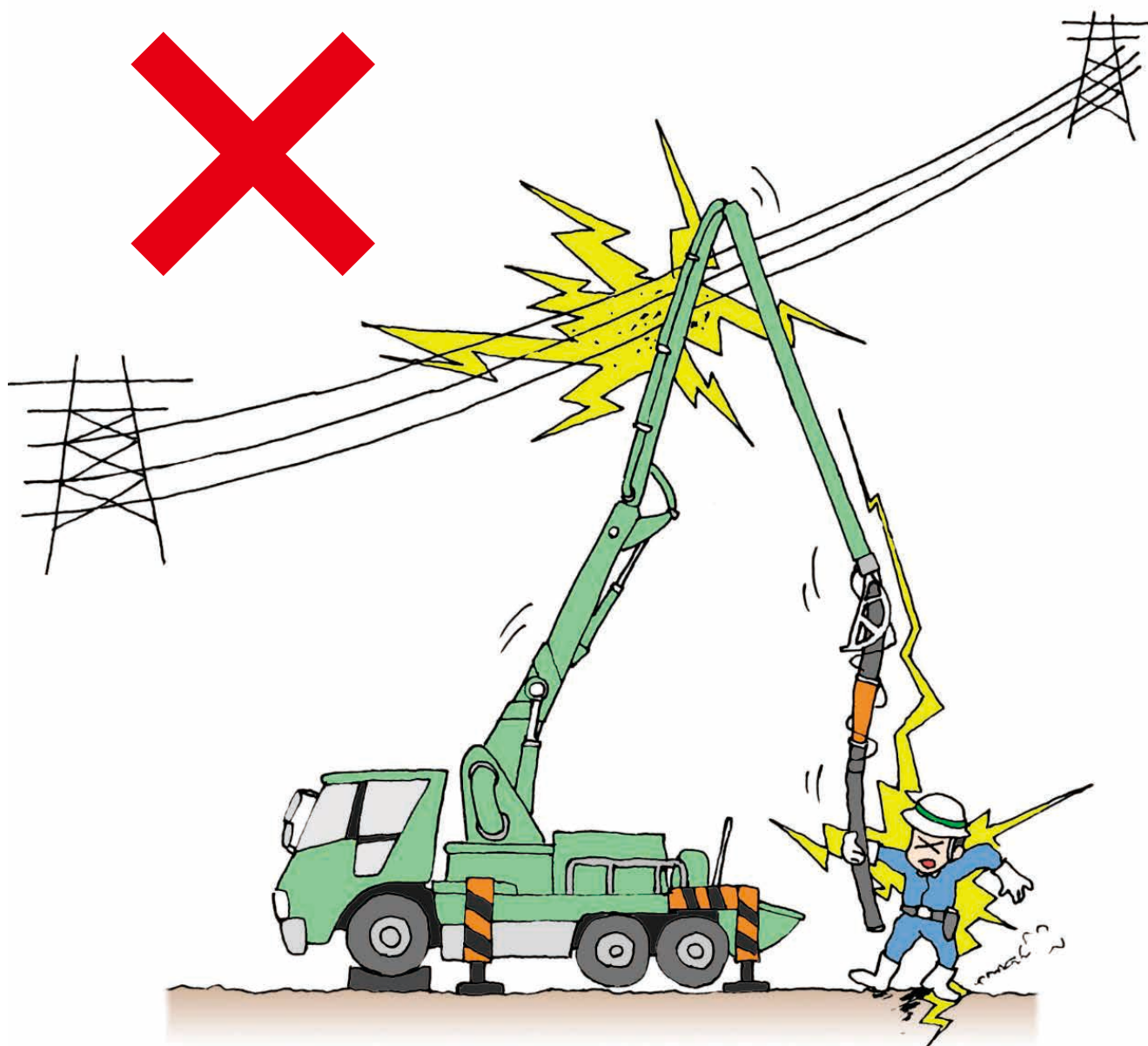
埋め戻し箇所にコンクリートポンプを設置したことによる転倒事故例



## (4) 配電線・送電線付近での設置

配電線や送電線の付近でブーム付コンクリートポンプ車を設置する場合は、ブームの作業範囲が電線と一定の距離を保てる場所に設置します。

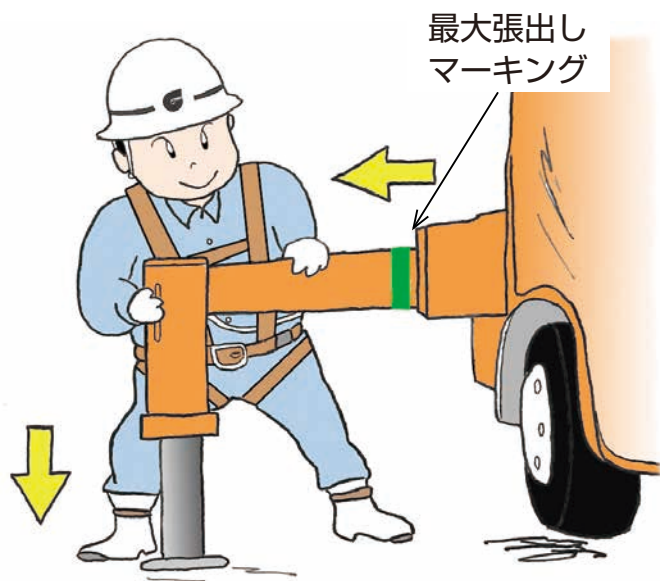
電圧の高い電線にブームが近づくと、直接電線に触れなくても火花放電により電気が流れ、感電災害につながる危険性があります。



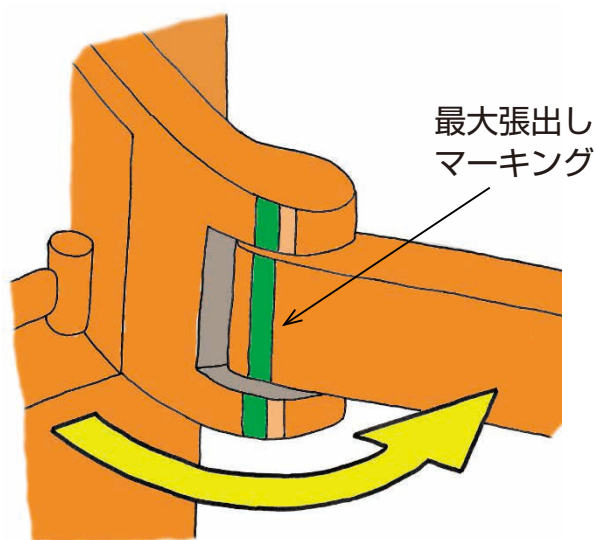
ブームが送電線に近づいたことによる感電災害例

## (5) アウトリガーは最大に張り出す

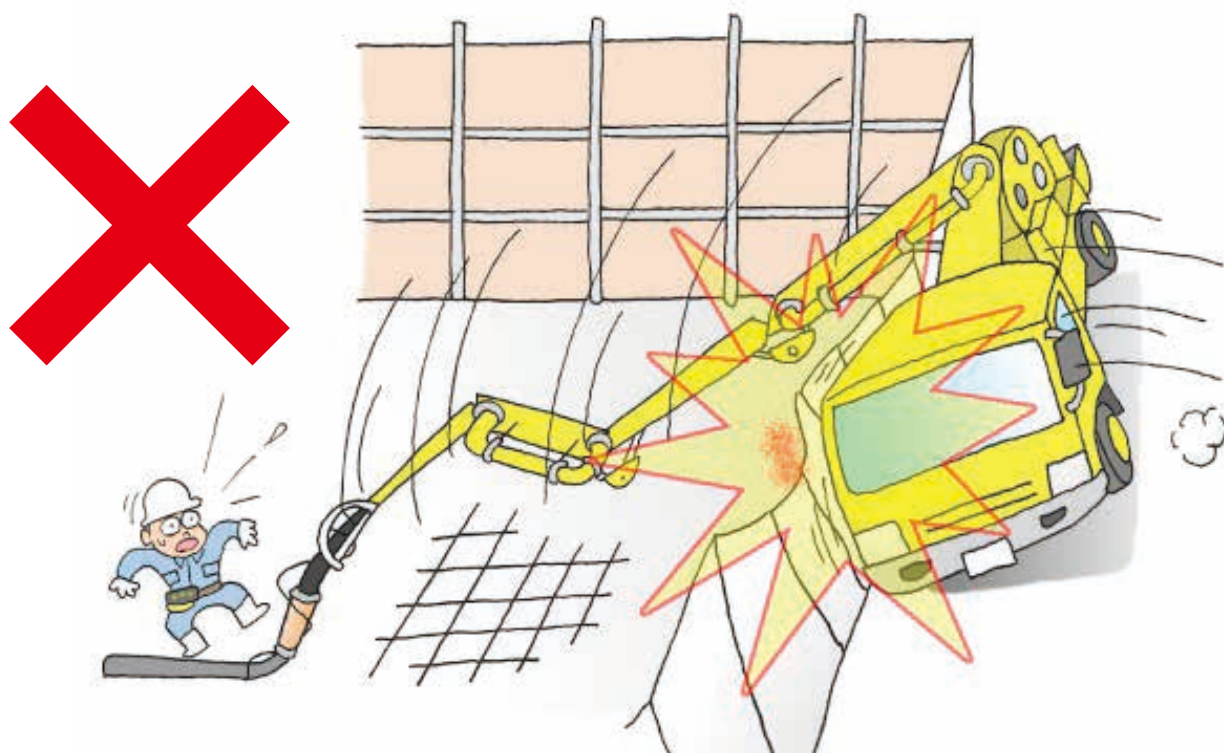
ブームを使用して圧送作業を行う場合は、転倒事故を防ぐため、コンクリートポンプ車のアウトリガーは、つねに両側を最大幅に張り出して設置します。



スライド式の場合



ウイング式の場合



アウトリガーの最大張出しと最大張出しマーキング

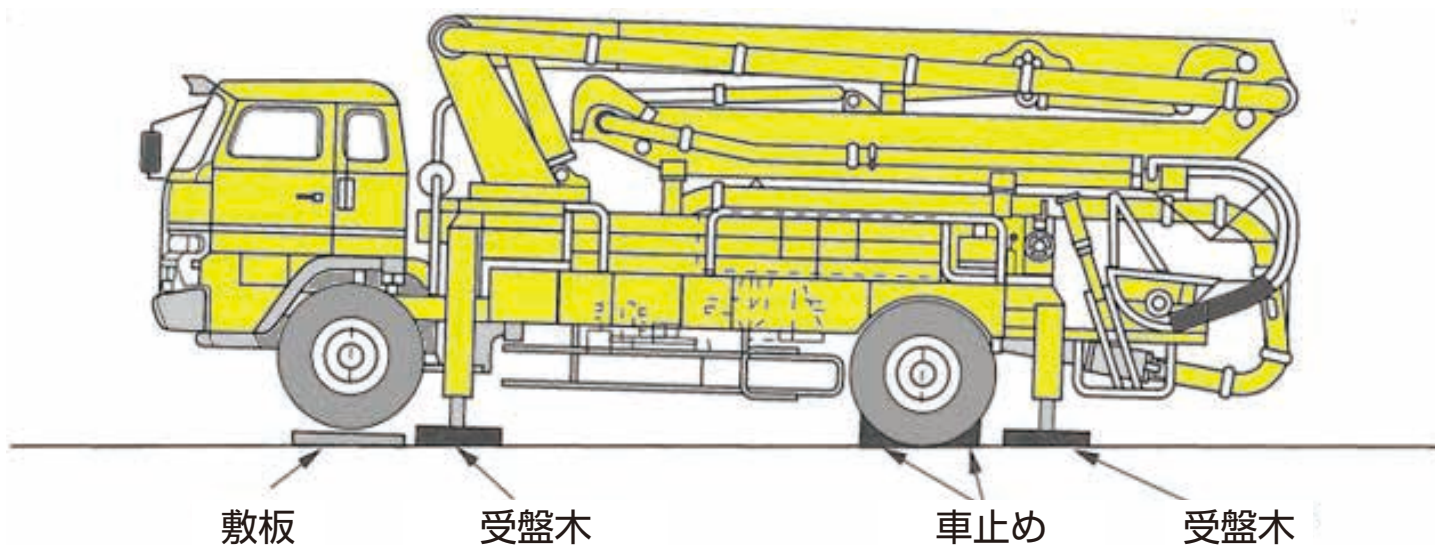


## (6) 受盤木を使用して設置する

コンクリートポンプ車を設置するときは、車体の重さや圧送中の振動によって、アウトリガーが地面に沈下して転倒する事故を防ぐため、受盤木をアウトリガーのフロートと設置地面との間に敷設します。



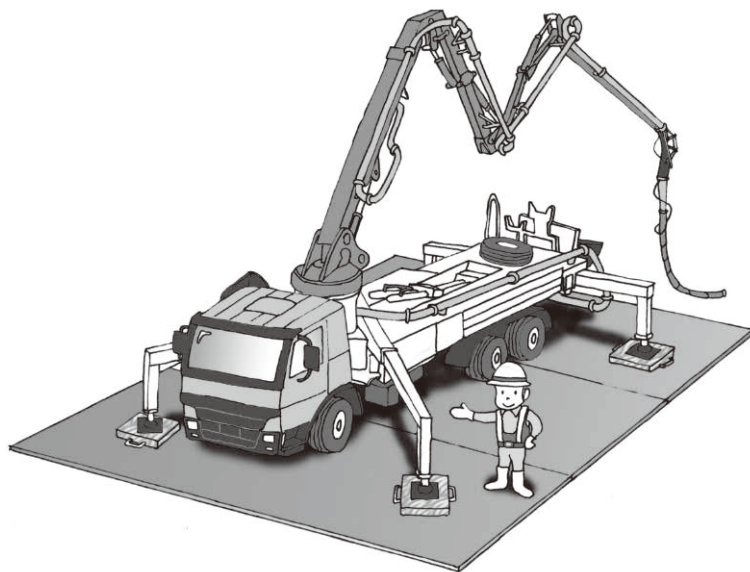
受盤木の例



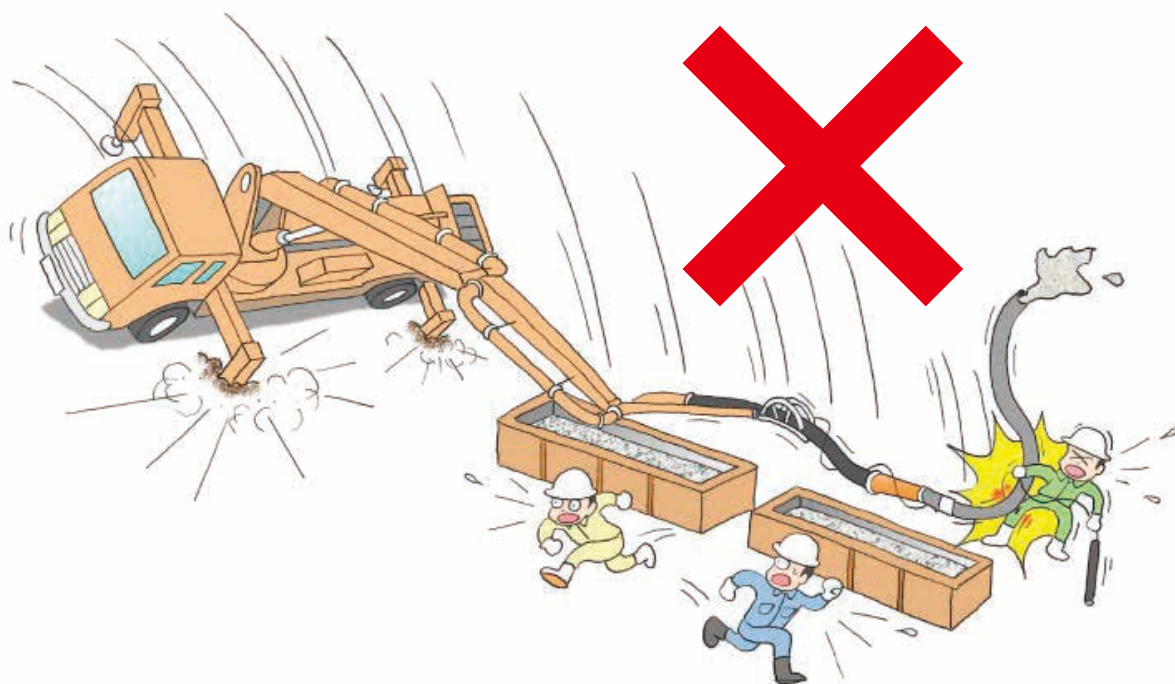
受盤木を使用したコンクリートポンプ車の設置例

## (7) 軟弱な地盤では、敷鉄板を使用して設置する

乗入構台やコンクリート舗装などの強固な地盤以外の場所にコンクリートポンプ車を設置するときは、受盤木だけではアウトリガーが地面に沈下して転倒するおそれがあるため、敷鉄板で地面の養生・補強を行って設置します。



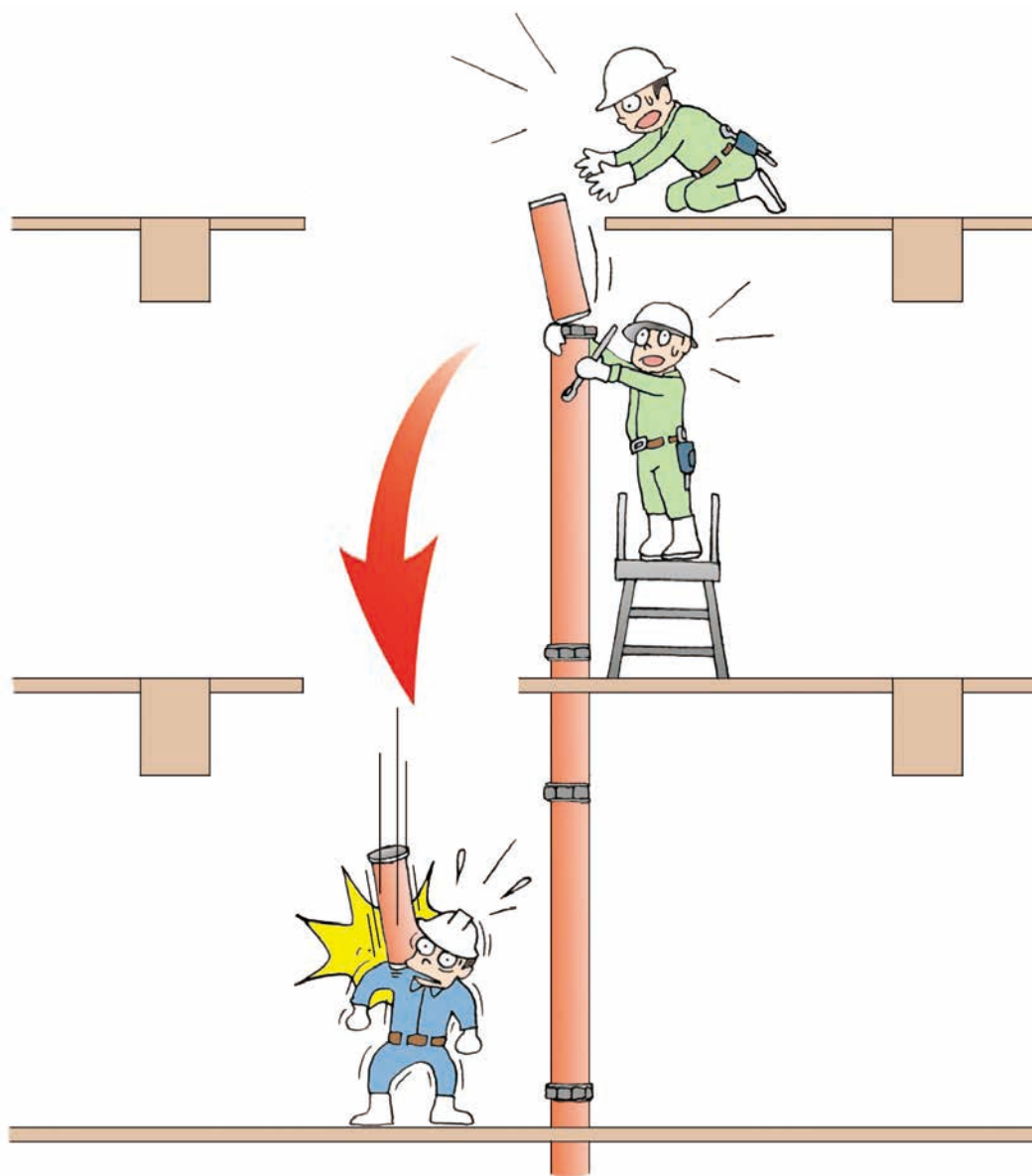
敷鉄板での養生によるコンクリートポンプ車の設置例



敷鉄板で養生せず、アウトリガーが沈下しコンクリートポンプ車が転倒した事故例

## (8) 足場などから機材を落とさないよう注意する

足場などから輸送管やジョイント（継手）、工具などを落とすと、下方の通行者にケガを負わせるおそれがあります。上から物を落とさないよう、すべり止めの付いた手袋の着用、安全ネットでの養生、立入禁止措置など、十分に対策をしてください。また、下方は立入禁止とします。



輸送管を落として下方の通行者にケガを負わせた災害の例